

コットンの魅力 高山村から発信

商店街の一角に開所する「和光」の見学を訪れた住民ら

商店街

うな気持ちで施設に入る人もいる。その分、施設が地域に入り込んでいくことが大話した。

全国サミット 県内初開催



綿の魅力などについて話すパネリスト

綿花栽培の普及に向けて意見を交わす「全国コットンサミット」が25日、高山村で開かれた。遊休荒地で綿花の試験栽培に取り組み同村などによる実行委員会が主催。綿花栽培や商品開発に携わる関係者が、講演やパネル討論を通じて綿の可能性について考えた。

サミットは5回目で、県内初開催。会場には綿製品の販売ブースなどもあり、約400人が来場した。

大正紡績（大阪府）の素材戦略シニアディレクターで、全国サミット実行委会長の近藤健一さん（75）が、世界の綿花栽培の状況を巡り基調講演。世界で衣料用などに使わ

れる繊維の68・7%が化学繊維で、天然繊維の綿は29・8%を占めると説明した。将来、化石燃料が枯渇すれば化繊価格が高くなる可能性があるとして「綿花は復活しなければならぬ」と述べた。

「憧れる素材」目指して

パネル討論には織物製造販売の高沢織物（長野市）テキスタイルデザイナーの高沢史納さん、イッセイミヤケ（東京）取締役企画技術ディレクターの皆川魔鬼子さんら4人が参加した。高沢さんは、自分が着る服の素材に興味を持ってほしいと主張。皆川さんは、さまざまな種類の衣服がある時代だけに「天然繊維が」憧れになることが

重要とし、綿の魅力を多くの人に伝えることが必要とした。



音楽祭のステージで合唱を披露する小学生

青空に響く 佐久「まじゅう音楽祭」

佐久市佐久平駅南の市民交流ひろばで25日、「まじゅう音楽祭」が開か

れた。市内の幼稚園や保育園、小学校、高校の9組が楽器演奏や合唱を披露。ほかに13のコーラスグループのメンバーと観客が一緒に歌う「市民合唱」もあり、久しぶりの青空の下、家族など約2300人が来場して音楽親しんだ。

同市内のコーラスグループ代表や揮者ら27人と2団体でつくる実行委員会などの主催で、22回目。今年は、ろばの芝生上にステージを組み、客には幅約15メートルのよじり鉄を設けた。

ステージ発表では、かわいらしい装の園児たちが太鼓をたたいたり、学校の合唱部が手話も用いて歌ったり。観客は、演奏が終わるたびに拍手を送り、市民合唱では童謡の「まっな秋」などを大きな声で歌っていた。

同市岩村田の長谷川貞夫さん（75）「子どもの歌声を聞くと童心に帰る」。佐久市野沢小学校6年生の内津結さ（12）は「高校生の合唱を初めて聞いた人数が少なくても声が大きく、上手と驚いていた」。

富倉街道を結たさまざまな交流について話す長瀬さん（中央奥）



新潟県妙高市民でつくる国街道研究会は25日、歴史の街道についての講演会を市で開いた。飯山市教育長長瀬哲さん（70）が「信濃のみた富倉街道」と題して講演。妙高、上越市のほか、飯山